

大学体育スポーツ高度化共同専攻

実践的教育能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
02JD001	大学体育論	4	1.0	1	春AB	集中	木内 敦詞, 松尾 博一	体育以外を専攻する大学生対象に開講される、教養(共通)科目としての体育授業を、一般に「大学体育」と呼ぶ。体育を専攻する大学院生が修了後に大学で職を得る場合、その多くがこの大学体育を主に担当することになる。体育以外を専攻する大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。本講では、今日の大学教養体育教員に求められる職務の理解を深めるとともに、大学体育や大学スポーツの教育・指導の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。	筑波大学開講 OBVA001と同一。 遠隔授業 筑波大学体育科学系棟 B323
02JD002	大学体育授業演習I	2	2.0	1	通年	随時	木内 敦詞, 長谷川 悦示	2024年度は対面授業を筑波大で4/27土12:15-16:30に実施。教師行動分析の手法を学んだ後、自身の授業や指導場面の録音録音をもとに、自己分析する。5-7月に質問対応の場を随時設ける。	筑波大学開講 OBVA002と同一。 対面
02JD003	大学体育授業演習II	2	2.0	2・3	通年	随時	木内 敦詞, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一	大学2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業の目標—内容を評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。	筑波大学開講 OBVA003と同一。 対面
02JD004	大学体育授業演習III	2	2.0	2・3	通年	随時	木内 敦詞, 本間 三和子, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一	曜日時限の固定された定時開講ではない、季節性の集中授業として開講される大学教養体育授業を演習の場とする。非日常的が活動を通じた経験から学ぶ力を学生と共に育むべく、安全で効率的で魅力的な集中授業を運営できる能力を身につける。	筑波大学開講 OBVA004と同一。 対面
02JD005	体育スポーツ実践的指導演習	2	2.0	1	春ABC	金2	坂本 昭裕	大学体育スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学体育スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。	OBVA005と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学開講

実践的研究能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
02JD101	体育スポーツ実践的研究方法論	1	1.0	1	春AB	集中	坂本 昭裕	スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。	OBVA102と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学開講。体育科学系棟B323にて実施。集中授業日程を入力する
02JD102	体育スポーツ実践的研究演習I	2	2.0	1	秋ABC	木1	坂本 昭裕	体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を講読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータや事例をもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。	OBVA103と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学開講
02JD103	体育スポーツ実践的研究演習II	2	2.0	2・3	春ABC	木1	坂本 昭裕	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力を身につけるために、受講者が関わっている体育やスポーツの現場において、自らがデータや事例を収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。その過程で、当該研究の発表の場である「スポーツパフォーマンス・カンファレンス(SPERC)」での自らの発表や他の研究者の発表視聴を通じて実践研究の見識を深める。評価は、演習への積極的な参加態度や「スポーツパフォーマンス・カンファレンス(SPERC)」での発表や『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿の成果から総合的に判断する。	OBVA104と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学開講

02JD104	体育スポーツ実践的研究演習III	2	2.0	2・3	通年	随時	坂本 昭裕	光学式モーションキャプチャー、フォースプレートやハイスピードカメラ、オブジェクトトラッキングシステム、球質診断装置等の先端的研究機器をスポーツパフォーマンス研究センター等に設置して、体育・スポーツの実践的研究能力を向上させるための演習を行う。必要に応じてその種目の競技場や体育館に設置しデータを取得する。その後、得られたデータの分析法、フィードバック法を検討し、状況に合わせたデータ処理、データ提供をどのようにすべきか議論する。さらに上記の客観的データに加えて、アスリートおよびその他の実験協力者の内省報告を重視し、主観的データも併せた研究を行う。	OBVA105と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学開講
02JD105	大学体育研究演習	2	2.0	1	春AB秋AB	金1	木内 敦詞、金谷 麻理子、奈良 隆章、永田 真一	研究方法・論文執筆方法をテキスト『(春学期)研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」』『(秋学期)基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆』に沿って体系的に学ぶ。研究のテーマをどう設定し、計画をどう設計し、論文をどう執筆するかについて、そのゴールとプロセスを概観することで、学術研究の作法を体系的に学ぶ。その中で大学体育教員としての職業観の深化を狙う。	筑波大学開講 OBVA101と同一。 対面

高度指導者教養育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
02ER004	コーチングの哲学と倫理	1	1.0	1	春AB	月5	中山 雅雄、齋藤 健司、深澤 浩洋、本間 三和子、山口 香、河合 季信、向井 直樹、浅川 伸、勝田 隆、秋山 央	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。	OBTR004と同一。 主専攻必修科目。対面
02JD201	最先端スポーツ科学理論	1	1.0	1	通年	応談	坂本 昭裕	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による講義、学外講師を招聘して開催する特別講義・研究セミナー、さらに論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。	OBVA301と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学開講
0A00303	国際インターンシップ	3	1.0	1 - 5	通年	応談	柏原 真一	学生自らが国際的な職業体験(海外の大学におけるPFF体験を含む)や海外の大学・研究機関で主催される各種トレーニングコースを開拓し参加することで、自身の能力涵養を図る科目である。海外における受入先との調整、海外渡航の手続き、海外での職業体験、受入先でのコミュニケーション、海外生活経験を通して、コミュニケーション能力、国際性、キャリアマネジメント能力の向上を実現する。学習成果をより効果的なものとするため、海外において研究活動を行うだけでなく、実施計画書を基にした事前指導及び帰国後の成果報告書の作成とフィードバックを受けることを必要とする。	

博士論文研究能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
02JD301	博士論文課題演習I	2	2.0	1	通年	随時	木内 敦詞、本間 三和子、長谷川 悦示、高木 英樹、鍋倉 賢治、坂本 昭裕、金谷 麻理子、奈良 隆章、松尾 博一、永田 真一	研究テーマを定め、それに関わる課題を設定し、それに答えるためのデータを収集し、そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し、緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。	OBVA201と同一。 対面
02JD302	博士論文課題演習II	2	2.0	2・3	通年	随時	木内 敦詞、本間 三和子、長谷川 悦示、高木 英樹、鍋倉 賢治、坂本 昭裕、金谷 麻理子、奈良 隆章、松尾 博一、永田 真一	投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、ゲラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。QE(博士論文執筆開始資格認定検査)へ向けた準備を進める。	OBVA202と同一。 対面